

学校ホームページでは
カラー版で見られます。

学校だより
No.15

月にみがきて

H20. 12. 3

更級小学校

11月「なかよし月間」「人権教育参観日」を終えて

紅葉が深まり、一段と朝の冷え込みが深まるこの時期に、県内では心の温かな児童生徒への成長を願う人権教育の取り組みが例年行われます。本校でも11月を「なかよし月間」として、人権教育係、児童会のなかよし委員会を中心に集会を持ったり、人権教育参観日を企画して、授業から児童の成長の様子を見ていただきました。また、PTA講演会では空手指導と寮生活で青少年の健全育成に尽力されている武道家の小沢隆先生にも、講演をしていただきました。そんな「なかよし」の1ヶ月を振り返ってみました。



11/20 人権教育参観日公開授業

「集団ゲーム」「対人関係のワークショップ」「物語から心情を表現する活動」等々、各学級で様々な授業がありました。

「ゲームがどうして人権教育なの？」という疑問もあるかも知れませんが、どんな友だちとも瞬時にチームを作ったり、協力してゴールを目指すためには、コミュニケーション力が大事になります。仲間と協力しないと勝てないもの、順位よりも達成できたことが喜べるものなど今は工夫されたゲームがたくさんあります。そして、何より身体ごとお互いにふれ合う体験をすることが、肯定的に他者にかかわる力の基礎になると、近年指摘されています。そういえば「相撲遊び」とか「馬乗り」とか、校庭で子どもたちがやらなくなって久しくなりました。通信対戦ゲームやカードゲームの世界で育つ子どもたちには、このようなふれ合いは特に必要だと思っています。



1年生の集団ゲーム「森とリス」

6年生「からすたろう」の主人公になって



6年生は物語のロールプレイに挑戦していました。「傷ついた相手の気持ちを思うと、まず、何を言っているかわからない。」と言葉につまる場面も。他者の気持ちを想像し、その立場になって考えることの大事さを学んでいました。



3年生ワークショップ 「どっちを選ぶ?」: 思いをはっきりと相手に伝えたり(自己選択、自己決定から自己を大切に思うこと)、また、自分とは違う思いの他者がいることに気づく(他者、異質なものの受容と理解)活動です。

11/19(木) 校長講話「なかよしの想像力」

そうぞうりよくのはなし
(想像力)
「なかよしのそうぞうりよく」

あいてがみえないケイタイ。
あいてのきもちになる、
そうぞうりよくがないと！



いじめ、友達とトラブル、動物の虐待、物を壊すこと、落書き、障害者への差別、、、。相手の気持ちへの想像力がないと、これらはすぐに起きてしまうこと。だから、相手の気持ちを考えることが大事なことを、絵本から勉強しました。

11/28(金) なかよし集会

「なかよし月間」のしめくくりとして、先週末28日には、「全校なかよし集会」が行われました。

はじめは、各学年代表がなかよし月間の感想を作文発表しました。4年生はみんなで標語を作り、発表しました。

4年生、発表の標語

「ごめんね」の その一言で ひろがる輪(和)
いやなこと やっちゃだめだ ぜったいに
「ごめんね」の 言葉だけでも 仲直り
ともだちの きずなは一生 とぎれない

次は、なかよし委員会のみなさんがリードしての全校ゲームでした。10人の全学年が集まるチーム



をその場で作り「カモン」というゲームをしました。全員が別チームのリーダーとじゃんけんして勝ち抜けばゴール、じゃんけんに負けると全員を「カモン」と呼んで、リーダーの周りを一回りします。負けるたびに「カモン」と全員が協力して応援してくれるので、負けても不思議に楽しい、みんなが仲間になれるゲームでした。

「国際理解教育で4人のALTの先生方と交流」

市の国際交流員や中学校のALTなど4名の先生方が11月17日から交代で、英語を交えて、出身の国々の紹介をする授業をしていただきました。授業の教室にはいるのにはパスポートがいるという設定で、英会話の練習を兼ねて自分の名前を英語で伝えることから授業が始まります。写真のドン先生はニュージーランド出身。暑い夏にクリスマスがあること、羊が国中どこにでもいっぱいいることなど、その話に驚いていました。

